

## 長野市総合計画審議会作業部会 第7回産業部会 議事録（要旨）

月日 平成 18 年 2 月 24 日（金）

時間 午後 1:30～

場所 第三委員会室

<基本構想「施策の大綱（素案）」産業分野について>

部会長；本日の部会で原案とするので、全体一括で議論したい。

部会員；都市内分権をやっていく中で、経済団体はどう位置づけられるのか。

専門部会長；地区協議会を作り、そこに商工会議所の支部や商店街など経済団体が入っていく。地区によっては工業関係の部門が入るなど、地域の独自性も出てくるのではないか。

部会員；活動費はどうなるのか。

事務局；地区協議会の設置までは話が進んでいるが、どのように動きやすくしていくかは次のステップとなる。

部会長；現在作業部会でやっている話と整合を取る必要があるのか。

事務局；商工団体も含めて地域で母体を作っていくという考えはある。

専門部会員；金太郎アメではなく、地域特性に沿ってやっていこうというのが趣旨。中山間地なら農業、中心市街地なら商業というような、地域ごとの特性がある。

部会員；そのことを認識しておいてもらうことが大切だ。

部会長；素案の内容について他に何かあるか。

部会員；商業のところで、「観光等で訪れる人にも」とあるが、まちづくりの方向性でも「ながの」という言葉を使っており、「ながのを訪れる人」の方がいいと思う。

事務局；観光客や広域商圈からの買物客を想定したが、「ながの」と言い換えた方が良ければそのようにしたい。

（賛成あり）

部会員；企業誘致の部分で、「製造や流通等の企業立地」とあるが、「流通」は大型商業店舗を連想してしまい、誤解されるのではないか。

事務局；綿内流通ターミナルを分譲した経過もあり、運輸やトラックターミナル的なものを言おうとした。

部会員；であれば、「流通」より「物流」の方がいいのでは。

部会員；（「信州の産業観光ガイド」を配布）観光としての産業観光がある。蔵や景観も観光資源になる。

専門部会員；策定中の 1200 万人観光交流推進プランの中で、産業観光を位置づけている。今後は、ただ見るだけでなく、農業ならグリーンツーリズム、善光寺も境内で延喜を聞かせてもらえるような展開が必要になっている。交流や学びの要素が大切。

部会員；市民講座の中に「観光」を取り入れて欲しい。地元の人が意外に地元のことを知らないでいる。市民が地域のことを知ることが観光には必要。

部会員；ハワイのリピーターは、土地の匂いが好きで何回も来るといふ。長野にも繰り返し来ていただくことが必要で、観光の「地域資源をいかした訪れてみたくなる地域づくり」を「観光資源をいかし、繰り返し訪れてみたくなる」としてはどうか。

部会員；「訪れ、また繰り返し訪れる」というように、まず一度訪れていただき、また訪れるというようにしてはどうか。

事務局；少しくどくならないか。

部会員；「繰り返し訪れる」には一度来てまた訪れるという意味が入ってくるので「繰り返し」だけでいいと思う。

部会長；他に意見がなければ事務局で整理してほしい。

事務局；観光で「観光資源をいかし、繰り返し訪れてみたくなる」と修正、企業誘致の「流通」を「物流」に修正、商業の「観光等で訪れる人」を「ながのを訪れる人」に修正したい。

部会長；これで産業部会の原案としてよいか。

全員；了承

#### <基本構想「施策の大綱（素案）」行政経営の資料について>

部会員；効率ばかり追うと安全性が問題になる。何でも民活というのもよくない。

部会員；個人情報漏れたり外部流失したりするのが心配だ。

事務局；効率化は、行財政運営をもっと効率的にして市民サービスに資源を向けましょうということを行っている。効率化の一方、項目5では市民満足も同時に図っていくとしている。情報については、個人情報保護を基本計画で入れたいと考えている。

部会員；コラボレーションの中で市民満足度は大切になる。効率化に対するセーフティネットも課題としてある。

部会長；行政経営に関する意見は他の部会のあわせて事務局で検討をお願いしたい。

#### <基本計画に向けた意見交換>

部会長；まず観光について意見をお願いしたい。

部会員；訪れてみたくなる地域づくりとして、観光地に来るストレスを軽減するインフラ整備、駐車場整備が必要。商業では項目に入っている。

部会員；地域内周遊のためにインフラ整備は必要。ソフトと平行的にやる必要がある。

部会長；財政的な話しはどう扱うのか。

事務局；財政の話は当然出てくるが、今日の意見交換では基本計画たたき台の参考に、意見としてお聞きしたい。

部会員；ほとんど車で来るので、善光寺の周辺に駐車場は必要。最近カーナビに駐車場

の表示が出るが、中高年者には案内板の整備も必要。

部会員；ハード整備というより動線の整備と言った方がいいかも知れない。

部会員；北信濃には癒しの要素が大きい。これを全国にPRし、具現化できないか。

専門部会員；周辺の16市町村と連携し、JRとも提携した北回廊プロジェクトを行っている。ターゲットは団塊の世代で、日本の原風景をテーマにしている。

部会員；千曲川の河東地域が歴史回廊になっている。歴史だけで学習観光のテーマになるのではないか。大室の古墳群は自然の原風景と歴史が同居している。

部会員；埋もれている資源はたくさんある。タクシーの乗務員もどうルートを組んでいいか知らない。繰り返し来ていただくには、そういう面も必要。

部会長；宣伝不足の面はある。また、案内板や案内人も不足している。

専門部会員；観光タクシーは陸運局の許可が必要になるが、事業者もまだ踏み込めていない。また、観光素材としての価値を吟味する必要がある。単なる地域起こしではなく、市場性の高いものをそれなりに見せていく必要がある。

部会員；長野の街並みや、住んでいる人がどういう所に住んでいるか、統一イメージがあればいい。壁が何色とか。

専門部会員；善光寺周辺と松代で、外壁の整備や電線地中化を進める街並み環境整備事業を行っている。

部会員；故郷の原風景を残すことが大切。地域観光ブランドの要素になるのでは。

部会員；音と匂いも重要。せせらぎの音や山羊の鳴いている声など。コンセプトを立ててやっていくことが必要。

部会員；原風景は65才以上の人知っている。今のうちに登録制などで原風景の記憶を残していかないと、知っている人がいなくなってしまう。

部会員；仕組みづくりが大切。エコーランド松代でもそうだった。

部会員；ウェブの活用などでPRはできるが、現場で観光客と接する人をどう教育するかが大切。観光客が来ても売り方を知らない。

部会員；これから観光はガラッと変わる。今までの観光をベースに考えていてはだめ。それを如何に察知し、行動していくか。

部会長；観光だけで時間が終わってしまったので、次回は続きをやりたい。